

第7回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

- 1 日 時 令和7年8月18日(月) 10時～12時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 議事内容

【市長あいさつ】

先日、全国の路線価が公表され、鳥取県内の標準宅地価格が16年ぶりに上昇に転じた。一方で、県内最高路線価となる栄町では3.2%の下落となり、全国の県庁所在地の中で唯一の下落となった。価格もバブル期と比較して10分の1の価格となり、地域経済の活性化に繋がる取組が必要であり、鳥取駅周辺の活性化、リ・デザインを進めることが急務となっている。

本日は、今年度の検討状況の報告と、レイアウト案を提示することとしている。忌憚のない意見をいただきたい。

- 【議題(1) 今年度の取組状況報告について】 資料により説明(資料P1～3)
- 【議題(2) 駅まち空間デザイン検討部会の状況報告について】
資料により説明(資料P4～14)
- 【議題(3) 四者連携協議会の開催について】 資料により説明(資料P15～16)

【意見交換】

1. 駅まち空間デザイン検討について

- ・ 今回の駅周辺再整備は、麒麟のまち圏域からの人の流出を防ぐとともに、一度都心に出ても戻ってくるようなまちとなるよう、まちづくりの方向性やまちの魅力、まちの価値を向上させるためにも非常に重要な機会である。
- ・ 今後数十年は、このような大規模な計画はないことから、最後のチャンスと捉え、都市機能の向上に資する投資という観点を持ち、身の丈よりも背伸びをすることも必要ではないか。

2. 交通ターミナルについて

- ・ バスターミナルの配置のうち、若桜街道に降車バースを設けることについては、まちなかへの回遊性が高まる期待がある一方で、駅前への動線上には屋根がなく、JRや他の路線バスへの乗り継ぎ利用が不便となる可能性が高い。

- ・ バスターミナル内での乗り場と降り場の併用については、重複ダイヤの調整等が必要となる。
- ・ バスターミナルの発券場所の整備など、利用者の利便性向上に向けた検討も必要である。
- ・ 路線バスと、大型バスとなる高速バスや空港連絡バスとでは、取り回しのスペースも大きく変わってくる。北口ターミナルは、路線バス専用とすることで、余裕を持った整備・運用が可能になるのではないかな。
- ・ バリアフリーの観点から、複合施設の1階部分を活用し、タクシー乗り場を駅のコンコース側に近づけることも検討してはどうか。
- ・ 様々な意見をもらいながらの検討となることを踏まえ、ユニバーサルデザインの考えを整理しておく必要がある。

3. まちづくりとの連携

- ・ 北口広場から自然に歩いて県道を渡れるような空間づくりが理想であり、県道部分も含めて大きな公園のように捉えられる空間整備を目指してほしい。
- ・ 県警や道路管理者との協議が必要だが、鳥取駅北口交差点（若桜街道）をスクランブル化し、歩行者の移動範囲を広げることも有効と考える。
- ・ 駅コンコースを出て真正面という好立地にあるサンロードも含め、北口広場や若桜街道を一体的に捉えた活性化に繋げていく必要がある。
- ・ 駅周辺、まちなか、鳥取城跡周辺、三つのエリアそれぞれで、様々な動きがあるが、個別の検討や取組に留まらないよう、まちづくりを繋ぐ旗振り役が必要である。
- ・ 駅から駅前への人の流れを持つていくためにも、北口広場、バード・ハット、サンロードを面と捉え、活性化していくような取組が必要である。

4. 複合施設

- ・ 複合施設に集約する公共施設は、市民にとっても関心が高く、民間事業者の出店検討においても重要な要素である。時期を見て検討状況などを公表し、関心を高めたまま検討・整備を進めてほしい。

5. レイアウトについて

- ・ レイアウトに関して、バスターミナルの配置など、大きな方向性について異論はない。一方で、北口交通広場や複合施設は、事業スキームも含め、引き続き、検討する必要があり、本レイアウト案を基本にしながら、更なる検討を進めていく必要がある。